



# F o r e s t 通 信

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター No.311

## 謹賀新年

新年明けましておめでとうございます。皆様には良い年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

さて、昨年は中央区と北区の小学校が新たに森林教室に参加してくださいました。普段、大きな声を出す機会がないのか、子供たちは森林散策の途中で何度も「ヤッホー」と大声を出していました。森林にすればリフレッシュできるんだと感じてもらえたと思います。今年も多くの皆様のご協力を得ながら、安全で楽しく中身の濃い森林教室を目指して一層の内容の充実に努めていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

2015年 元旦 高尾森林ふれあい推進センター所長 関下俊則



巻頭 photo **高尾山の生きものたち**

### ハヤブサ(ハヤブサ科)

ハヤブサを初めとする猛禽類は野鳥ファンならずとも憧れの鳥ではないでしょうか？この鳥は鳥類界の頂点を極める鳥で、それだけに出会えたり、撮影できた時の喜びは一入です。

今年も読者諸賢が、この鳥のように気高く羽ばたいていただくよう、ご祈念させていただきます。

引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

(写真・文 大作栄一郎氏)



高尾森林ふれあい推進センターは、皆さんが高尾山の自然に親しみ、森林や林業に理解を深めるための諸活動を行っています。

## DAIGO エコロジー村 イベント報告

### 大学生の炭焼体験&野外体験

11月27日、高尾森林ふれあい推進センター協定イベントとして、大学生を対象に炭焼体験&野外活動のイベントを、高尾山国有林の自然学習施設で実施しました。今回も申し込まれたのは、明星大学環境システム科・吉澤秀治教授の1年生47名で、学生にとっては単位勘定となる立派な授業です。DAIGO エコロジー村としては、このような研修を担う役割を果たすようになって今年で5年目になります。

体験は、10:00～15:00までの短い時間にも関わらず、「炭焼」「自然観察」「飯ごう炊飯」「竹食器製作」など盛りだくさんでした。参加した学生はそれぞれ2グループに分かれ、まずAグループはエコロジー村スタッフの森林インストラクターの資格も持つ萩田實氏に引率され、いろはの森の植生や高尾山の森林資源についての問答を交えながら、「自然観察」を行いました。一方Bグループは早速炭焼体験に入り、竹割、節取、窯詰までの一連のドラム缶炭焼における準備作業を、これもエコロジー村スタッフの炭焼講師の三森克人、正司知久両氏の指導のもと行いました。

AグループとBグループは、各プログラムを交互に行ったあと、野外活動が専門の同じくエコロジー村スタッフの小田健司氏の指導のもとで、「飯ごう炊飯」と「竹食器制作」の体験を行いました。今回は12個の飯盒を班(米約6合)ごとにドラム缶半割グリルを使用。また各自、竹を利用したマイ箸・竹食器作りも実施しました。自分たちで作ったご飯と食器で食事をとるという体験は、学生にとっては意外と新鮮な活動でした。

さすがに季節は初冬、日影沢の気温も市街地と違い相当に低い温度にも関わらず、参加学生の熱気はそれを上回るものでした。食事中も学生とエコロジー村スタッフとの懇親は続き、炭焼窯から立ち上る煙の観察なども行いました。

今回の最後の体験項目は、「出炭」です。ドラム缶炭焼とはいえ、炭化終了まで完全に行うとなると10時間以上は必要になります。残念ながら時間の都合上、自分たちの焼いた窯の炭の出来具合までは観察できませんでしたが、同じ日影沢で炭焼活動を行っている団体さんのご好意により、事前に焼いた炭がまだ出炭することなく残っていたので、これの、「窯出し(出炭)」を実施しました。固唾をのむ中、ドラム缶窯の蓋が開かれ、綺麗な竹炭が出てきました。自分たちの焼いた炭ではありませんでしたが、炭焼の工程を理解するには十分な、「窯出し」でした。

学生は、一つひとりの課題を自分で考え体験しながら考察していました。およそ5時間程度の学習時間でしたが、学生にとっては非常に充実した有意義な「授業・講義」だったようです。また、多くの学生から炭焼や森林資源に関する質問や意見も頂き、体験終了後担当の吉澤秀治教授より、「学生たちにとって非常に意義ある活動でした」というコメントも頂きましたが、我々スタッフにとってもやはり意義ある活動でした。本活動は引き続き来年度も新しい学生を迎えて実施予定です。

(写真・文 NPO 法人日本エコクラブ

DAIGO エコロジー村理事兼助役 川口武文氏)

飯  
ご  
う  
炊  
飯



自  
然  
観  
察



記  
念  
撮  
影



## クラフト 体験室です

高尾森林ふれあい推進センター1階のクラフト体験室では、自然の素材を使った素敵な木作品を作ることができます。

利用者をサポートするベテラン解説員（インタープリター）の3人に、新年の抱負を伺いました。



松本秀晴さん

木に触れる、木で創る、木を学ぶことの楽しさを伝えたいです。よろしくお願いいたします。



田村和夫さん

今年は忙しくなることが予想されるので、気合いを入れて頑張ります。よろしくお願いいたします。



日比容子さん

今年もご来館の皆様のお手伝いさせていただきます。よろしくお願いいたします。

クラフト体験室は年末年始を除き、年中無休で開館しております。（10:00～16:00。体験受付は15時まで。臨時休業あり）少人数の個人利用であれば予約なしでお気軽にお立ち寄りください。教育機関単位でのご利用を希望される場合は、2階事務室までお問い合わせください。



### 墨田区立菊川小学校

紅葉も終わり、寒さが厳しさを増した11月27日、墨田区立菊川小学校5年生69名の森林教室を実施しました。

まず実施した森林学習では、エビフライ（リスが食べた松ボックリの残骸）を直接手に取ったりして、高尾の動物や森林・林業について学びました。

引き続き実施した森林散策では、湧き水に直に触れるなどして森林の働きについて学習したことを実感したり、「山びこポイント」ではみんなで声を合わせて、「ヤッホー！」と大声を上げたりして楽しみました。

午後からは、慣れないのこぎりでスギの丸太を数枚輪切りにし、その後、樹木の生長の仕組みを、帽子や服に例えたわかりやすい解説を聞いて児童達は納得していました。

高尾の自然に触れた下町っ子は、森林の大切さへの理解を深め帰校していきました。



あ  
と  
少  
し  
！  
頑  
張  
れ  
！

## 森林散策とつるかご編み

平成26年12月6日（土）に「森林散策とつるかご編み」を実施しました。この一般公募イベントは毎年人気があり、今年度も69名の応募があったことから、抽選で30名の方にご参加いただきました。

森林ふれあい館に集合し、開会式を行った後、大平林道を往復1時間程度森林散策をしました。

その後森林ふれあい館に戻り、つるかごの編み方を習った後、参加者は事前に用意した「つる」を使い各々夢中でつるかご編みを体験しました。

参加者からは「森林散策の際細かく教えて頂き勉強になりました」「夢中で編み続け、楽しかった」「時間があっという間に過ぎ、とても楽しかった」などの感想を頂き好評のうちに終了しました。

傑作揃いです





information 参加者募集中!

## 冬の高尾山親子自然観察会



春を待つ木々の冬芽や、冬越しの生きものたちを探してみよう。(歩行距離約3.2km)



- と き** 平成27年2月22日(日)
- 集 合** JR 高尾駅北口改札前 9:00 受付開始
- 行 程** JR 高尾駅北口(9:20 出発)～多摩森林科学園～開会式～第2樹木園～第3樹木園～関山ベンチ(昼食)～昭和林道～森の科学館～閉会式・解散(14:30 頃)
- 実 施** 森林インストラクター東京会(高尾森林ふれあい推進センター協定イベント)
- 募集人員** 小学生以上のお子様とご家族50名(未就学児の参加はご遠慮ください。応募者多数の場合は抽選)
- 参加費** 1人500円(現地までの交通費、科学園入園料は参加者負担)
- 持ち物** リュックサック、昼食、飲み物、敷物、雨具、帽子、保険証(写)、活動しやすい服装、着替え、タオル、ルーペ・双眼鏡(あれば)
- 備 考** 雨天中止(小雨決行)

### 【申込方法】

往復ハガキの往信面に、参加者全員の①郵便番号②住所③氏名(ふりがな)・年齢・性別④電話番号(中止などの緊急連絡用)⑤電子メールアドレス⑥このイベントを何でお知りになったか返信面には、お申込者の宛名をご記入のうえ、高尾森林ふれあい推進センター「冬の高尾山親子自然観察会」係までお申し込みください。

★申込〆切 平成27年2月7日(土) 必着



### 編集後記

新年明けましておめでとうございます。今年は未年ですが、「未」という字は果実が熟して滋味が増した状態を表しているそうです。新しい年を迎え、Forest通信もいっそう味わい深く編集していきたいと思っております。本年もよろしくお願いたします。(ま)

## 高尾森林ふれあい推進センター 森林教室のご案内

高尾森林ふれあい推進センターでは、次代を担う子どもたちに、森林内での体験活動などを通じて人々の生活や環境と森林の関係について学んでいただくため、楽しく理解しやすい実習等の場を提供する、「森林環境教育」を実施しています。



- 1. 目的** 小学校4～6年生を対象として、「総合的な学習の時間」の導入により、子どもたちの、「生きる力」を育む体験学習等を行っています。
- 2. 内容** 大きく分けて、「森林教室」「森林観察」「丸太切り」「クラフト体験」など4つの講義・講習があり、学習させたい内容ごとに自由に組み合わせることが可能です。基本的には、午前と午後1コマずつ、1日4～6時間のプログラムを実施します。  
また、高尾山登山後に、「森林教室」「クラフト体験」のみを体験できるプログラムもあります。
- 3. 実施場所** 森林ふれあい館、学習の歩道、日影沢キャンプ場ほか、プログラムの内容によっては小学校まで出張して森林教室を行います。
- 4. 対象機関** 教育機関を対象とします。申込は学校などからの申込となります。  
費用は無償ですが、交通費や保険料等は学校の負担となります。



森林教室へのお問合せ、お申し込みは高尾森林ふれあい推進センターまでご連絡ください。また、当センターのホームページでもご紹介しておりますのでそちらもご覧ください。

### Forest通信 No.311

発行：高尾森林ふれあい推進センター  
Forest通信へのご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問合わせ先



林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター  
〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1  
TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229  
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>